

京都市域で確認申請される皆様へ

平成 22 年 1 月 20 日
京都市都市計画局建築指導部建築審査課
電話 075-222-3616

中間検査制度実施に係る「2 階建て住宅等」の確認申請添付図書等について

「木造 2 階建て住宅」の中間検査を効率的に行うため、建築確認申請書又は中間検査申請書に、下記の図書を添付していただくようお願いいたします。

また、工事監理者は、工事施工に際して、確認を受けた図書及び「平成 12 年建設省告示第 1460 号の木造の継手及び仕口」を参照のうえ、施工者に対して適切な指導を行っていただくようお願いいたします。なお、下記の取扱いは平成 14 年 7 月 1 日以降に申請したものに適用します。

記

1 添付図書

- (1) 基礎の構造関係チェックシート（別紙 1）
- (2) 軸組計算表、壁率比計算表、接合金物関係図書（別紙 2）

2 対象建築物

2 階建て住宅等

主要構造部の全部又は一部を木造とした住宅又は兼用住宅（延べ面積の 2 分の 1 以上を居住の用に供するものに限る。）で、地階を除く階数が 2 以上又は延べ面積が 50 平方メートルを超えるもの

なお、中間検査の申請の際には、建築基準法施行規則第 26 号様式により「中間検査申請書」第 1 面から第 4 面を提出していただくこととなりますが、第 4 面につきましては、代替様式として、「中間検査チェックシート」（一般事項）及び（2 階建て住宅）を使用してください。（別紙 3-1）（別紙 3-2）

京都市都市計画局建築指導部建築審査課ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/soshiki/9-3-2-0-0.html>

以上

(別紙 1)

基礎の構造関係チェックシート

年 月 日

京都市建築主事 様

設計者 住所

氏名

下記の各項目については、建築基準法施行令第 3 8 条及び建設省告示第 1 3 4 7 号に基づき、適法であることを確認しましたので報告します。

記

◎ 地耐力の確認

- ☐ 標準貫入試験
- ☐ スウェーデン式サウンディング法
- ☐ その他の方法 ()

◎ 基礎の構造

- | | | |
|---|---|---------------|
| ☐ 20 kN/m^2 未満 | ⇒ | 基礎ぐい |
| ☐ 20 以上 30 kN/m^2 未満 | ⇒ | 基礎ぐい・べた基礎 |
| ☐ 30 kN/m^2 以上 | ⇒ | 基礎ぐい・べた基礎・布基礎 |
| ☐ その他構造計算等で確認 | ⇒ | |

注意 : ☐欄の該当する箇所にチェックしてください。

軸組計算表・壁率比計算表・接合金物関係図書

1. 告示第 1 4 6 0 号第二号の表から接合金物を選択する方法

- ① 建築基準法施行令第 4 6 条第 4 項に基づく必要軸組計算表（建設省告示第 1 3 5 2 号に基づく壁率比計算を含む）
- ② 上記①の「軸組計算表」に基づき、各階平面図に筋交い等の配置及び種類を記載したもの
- ③ 建築基準法施行令第 4 7 条に関する、建設省告示第 1 4 6 0 号に基づき、各階平面図に筋交い等を入れた軸組の柱の 1 階柱脚に取り付けて基礎に埋め込むホールダウン金物（※）を記載したもの

（※）（別紙 2 の参考図）「建設省告示第 1 4 6 0 号第 2 号、木造の継手及び仕口の構造方法」の  表示の HDD 金物

2. 告示第 1 4 6 0 号第二号のただし書きから接合金物を選択する方法（N 値計算）

- ① 建築基準法施行令第 4 6 条第 4 項に基づく必要軸組計算表（建設省告示第 1 3 5 2 号に基づく壁率比計算を含む）
- ② 上記①の「軸組計算表」に基づき、各階平面図に筋交い等の配置及び種類を記載したもの
- ③ 建築基準法施行令第 4 7 条に関する、建設省告示第 1 4 6 0 号に基づき、各階平面図に筋交い等を入れた軸組の柱の柱頭・柱脚に取り付ける金物を記載したもの
- ④ N 値計算書

3. 令第 8 2 条第一号から第三号までに定める構造計算による方法（構造計算）

- ① 構造計算書に基づき、各階平面図に筋交い等の配置及び種類を記載したもの
- ② 構造計算書に基づき、各階平面図に筋交い等を入れた軸組の柱の柱頭・柱脚に取り付ける金物を記載したもの
- ③ 構造計算書

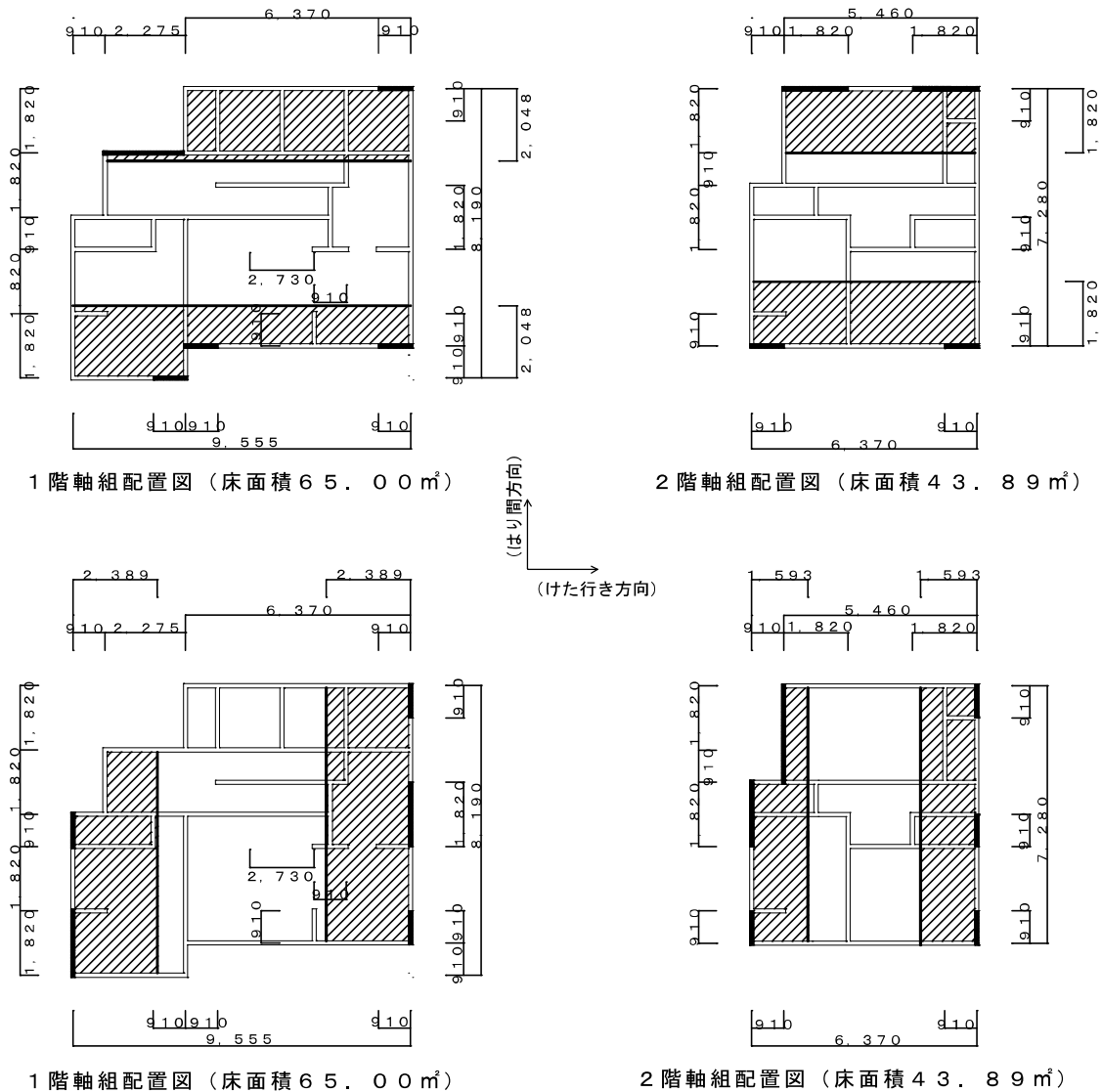
◎壁率比の計算書例

表 必要壁量の算定時に床面積に乘じる倍率 (m/m²) (建築基準法施行令第46条第4項表2より) H12. 5. 23 告示1352号

	平屋建て	2F建ての1F	2F建ての2F	3F建ての1F	3F建ての2F	3F建ての3F
重い屋根の住宅 (瓦葺)	0. 15	0. 33	0. 21	0. 50	0. 39	0. 24
軽い屋根の住宅 (金属板、石綿スレート等)	0. 11	0. 29	0. 15	0. 46	0. 34	0. 18

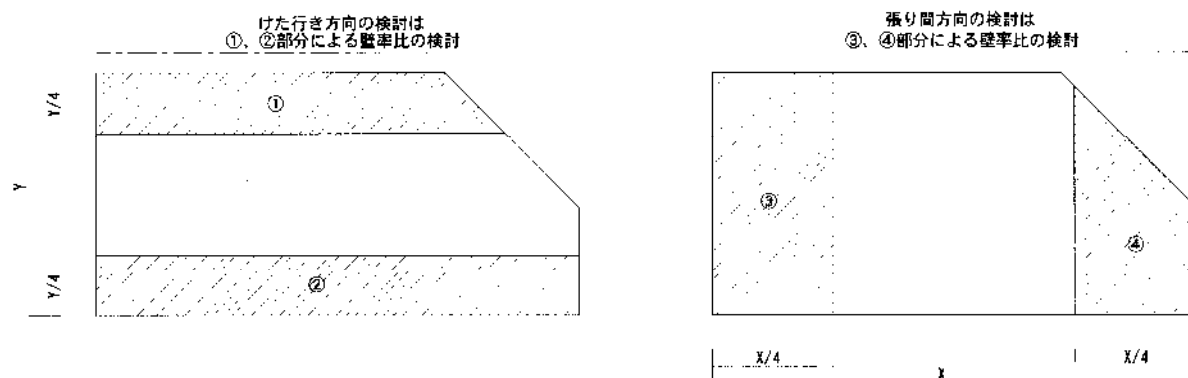
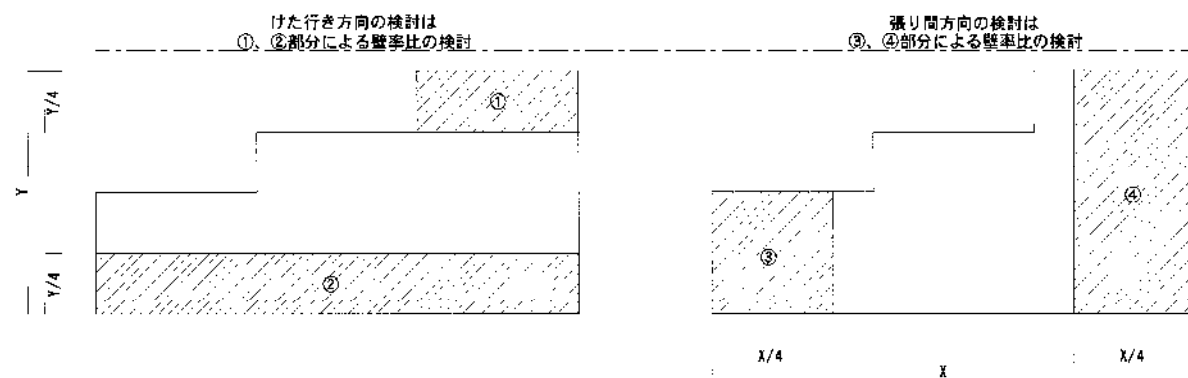
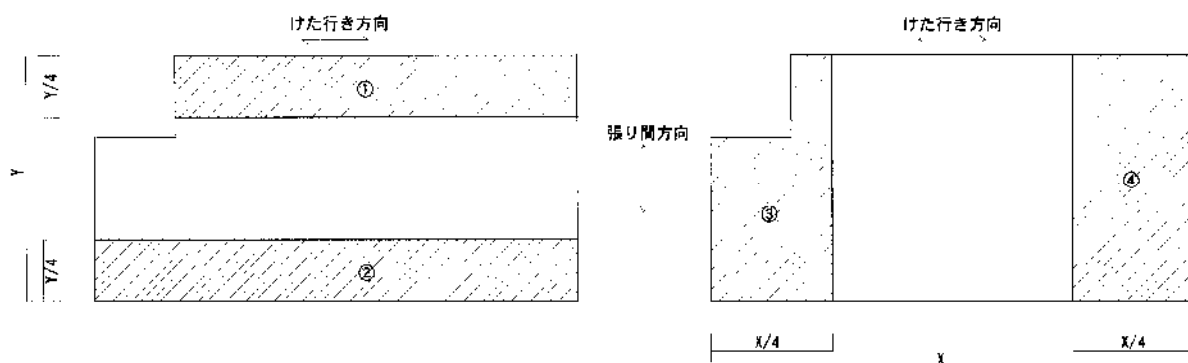
		b : 存在壁量	側端部分の面積 (㎡)			a : 必要壁量 (m)		c (b/a)	c > 1	壁率比 (>0.5)	判定
けた行き方向	1F	1.5×(0.91+2.275)=4.77	2.048×6.37+0.228×2.275	13.56	13.56×33	4.47	1.06	○	0.90/1.06 =0.85	OK	
		1.5×0.91×3=4.09	2.048×3.185+1.138×6.37	13.77	13.77×33	4.54	0.90	×			
	2F	1.5×1.82×2=5.46	1.82×5.46	9.93	9.93×21	2.09	2.61	○		OK	
		1.5×0.91×2=2.73	1.82×6.37	11.59	11.59×21	2.43	1.12	○			
張り間方向	1F	1.5×(1.82+0.91)=4.09	2.389×4.55+1.479×1.82	13.56	13.56×15※	2.03	2.01	○	0.95/2.01 =0.47	NG	
		1.5×(1.82+0.91×2)=5.49	2.389×7.28	17.39	17.39×33	5.74	0.95	×			
	2F	1.5×(1.82+0.91)×2=8.19	1.593×4.55+0.683×2.73	9.11	9.11×21	1.91	4.28	○		OK	
		1.5×0.91×3=4.09	1.593×7.28	11.60	11.60×21	2.44	1.67	○			

[仮定] 内壁、外壁共法施行令第46条第4項、表1(3)の筋かい(倍率1. 5) ※必要壁量計算における階数の取り方1-1 P5参照
必要壁量 2階建ての1階33cm/m² 2階建ての2階21cm/m²として計算



○各方向の1/4の取り方

(別紙2の参考図)

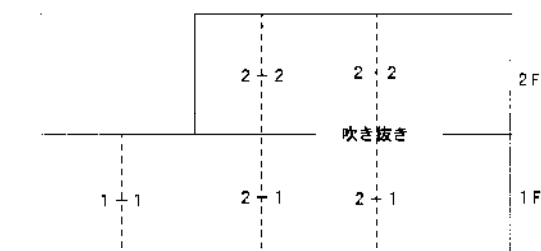


けた行き方向の検討は
①、②部分による壁率比の検討

張り間方向の検討は
③、④部分による壁率比の検討

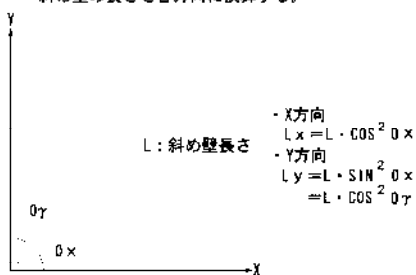
○必要壁量計算における階数の取り方

*吹き抜き部分も床面積に参入して計算する。



○斜め壁の取扱い

斜め壁の長さを各方向に換算する。



建設省告示第1460号第2号, 木造の継手及び仕口の構造方法

告示による, 耐力壁の柱上下金物一覧表

	筋かいの種類	柱の位置		
		出隅	その他	
最上階	1 ぎずり	ほぞ差し, かすがい	ほぞ差し, かすがい	
	2 15×90筋かい, 丸鋼9Φ	長ほぞ込み栓, CP-L	ほぞ差し, かすがい	
	3 30×90筋かい	筋かい下部有 他	長ほぞ込み栓, CP-L	
			SB-E2, SB-F2(羽子板ボルト) S-1(短冊・釘無し)	
	4 2のたすき	SB-E2, SB-F2(羽子板ボルト) S-1(短冊・釘無し)	長ほぞ込み栓, CP-L	
	5 45×90筋かい	筋かい下部有 他	CP-T, VP	
			SB-E, SB-F(羽子板ボルト) S-2(短冊・釘有り)	
	6 構造用合板	SB-E, SB-F(羽子板ボルト) S-2(短冊・釘有り)	長ほぞ込み栓, CP-L	
その他の階	7 3のたすき	HD-15	CP-T, VP	
	8 5のたすき	HD-15	SB-E2, SB-F2(羽子板ボルト) S-1(短冊・釘無し)	
	1 ぎずり	上階, 当該階とも出隅	上階のみ出隅	出隅でない
			上階のみ出隅	出隅でない
	2 15×90筋かい, 丸鋼9Φ	長ほぞ込み栓, CP-L	ほぞ差し, かすがい	ほぞ差し, かすがい
	3 30×90筋かい	SB-E2, SB-F2(羽子板ボルト) S-1(短冊・釘無し)	長ほぞ込み栓, CP-L	ほぞ差し, かすがい
	4 2のたすき	HD-15	CP-T, VP	長ほぞ込み栓, CP-L
	5 45×90筋かい	HD-15	CP-T, VP	長ほぞ込み栓, CP-L
階	6 構造用合板	HD-20	HD-10	CP-T, VP
	7 3のたすき	HD-25	HD-15	SB-E2, SB-F2(羽子板ボルト) S-1(短冊・釘無し)
	8 5のたすき	HD-15×2	HD-20	HD-15

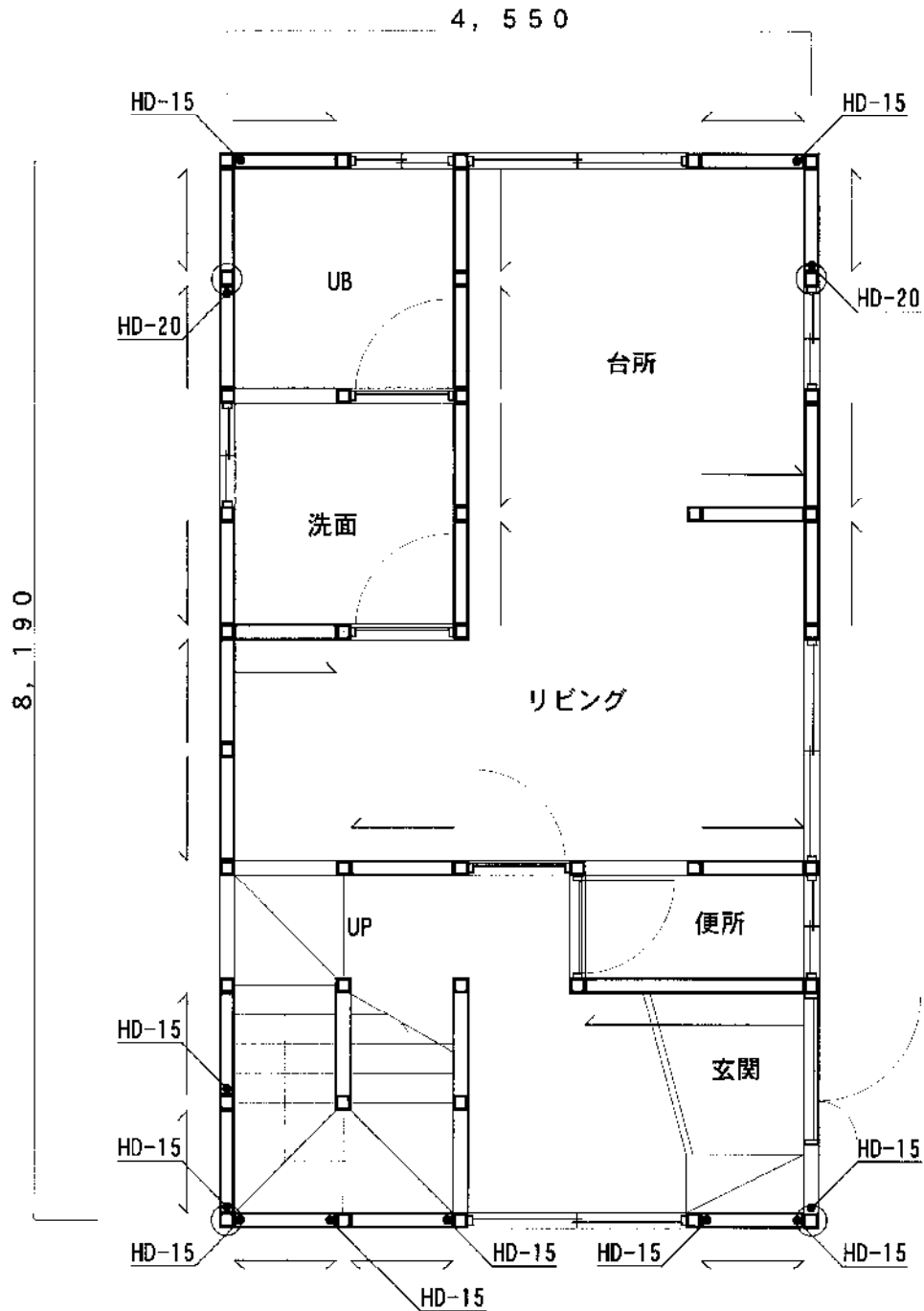
※鋼板厚さ, ボルト・釘等の径, 本数, 長さ, 取り付け方法は, 告示1460号による。

※(別紙2)の「1. 告示第1460号第2号の表から接合金物を選択する方法」による場合は,  表示のHD金物を, 平面図に明記して下さい。それ以外の金物については, 申請図面に明記は必要ありませんが, 現場は必ず施工して下さい。

(別紙2の参考図)

- 通し柱 □
 ○管柱 □
 ○筋かい 30×90
 30×90 たすき掛け
 (——) 45×90
 上 45×90 たすき掛け

この図面は(別紙2)の「1. 告示の表による場合」の記入例です。「2. N値計算」及び「3. 構造計算」の場合は全部の金物を記入して下さい。

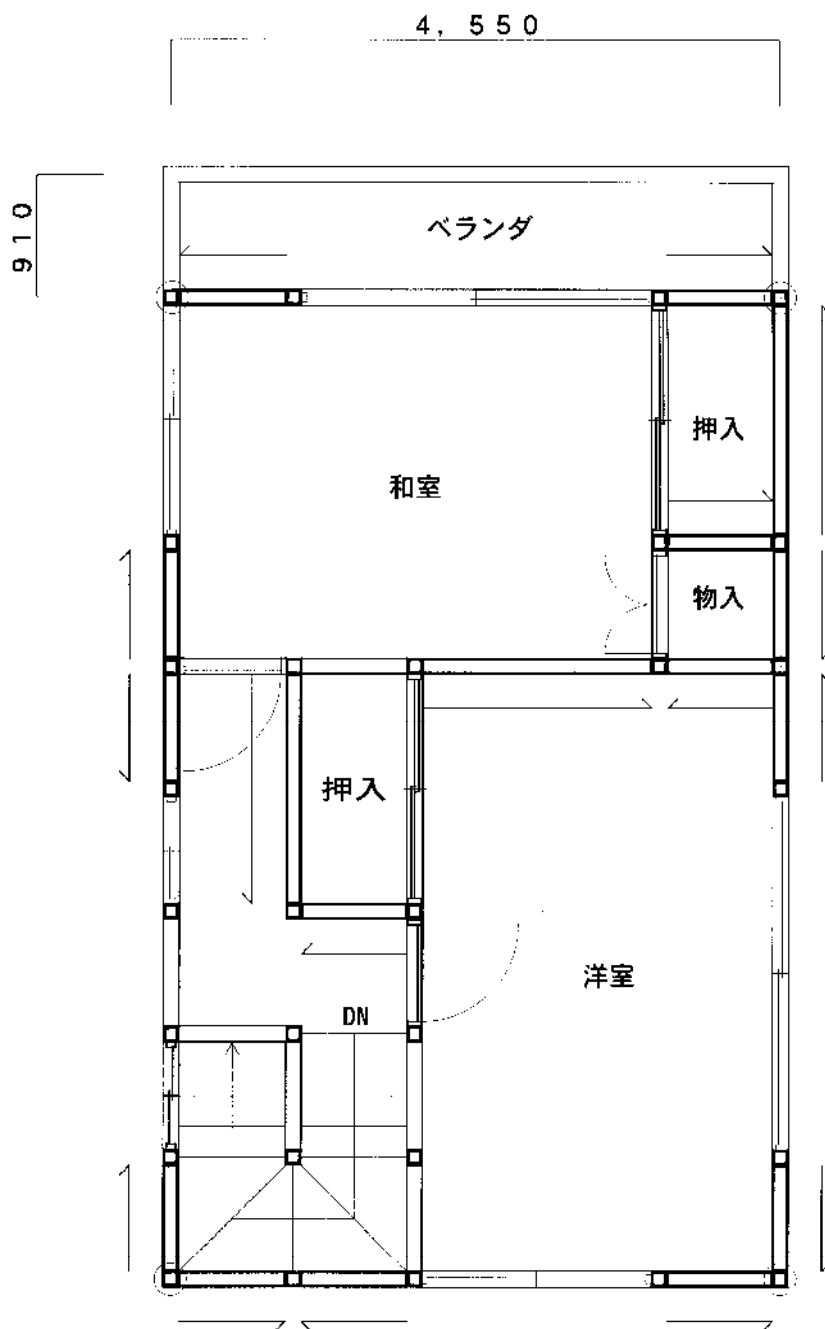


1階平面図(基礎埋め込み金物図) (1/50)

(別紙 2 の参考図)

- 通し柱 □
 ○管柱 □
 ○筋かい 30×90
 30×90 たすき掛け
 (上) 45×90
 45×90 たすき掛け

この図面は(別紙 2)の「1. 告示の表による場合」の記入例です。「2. N値計算」及び「3. 構造計算」の場合は全部の金物を記入して下さい。



2 階平面図 (1 / 5 0)

(別紙 3 - 1)

中間検査チェックシート(一般事項)

(規則第26号様式第4面の代替様式)

検査建築物の概要

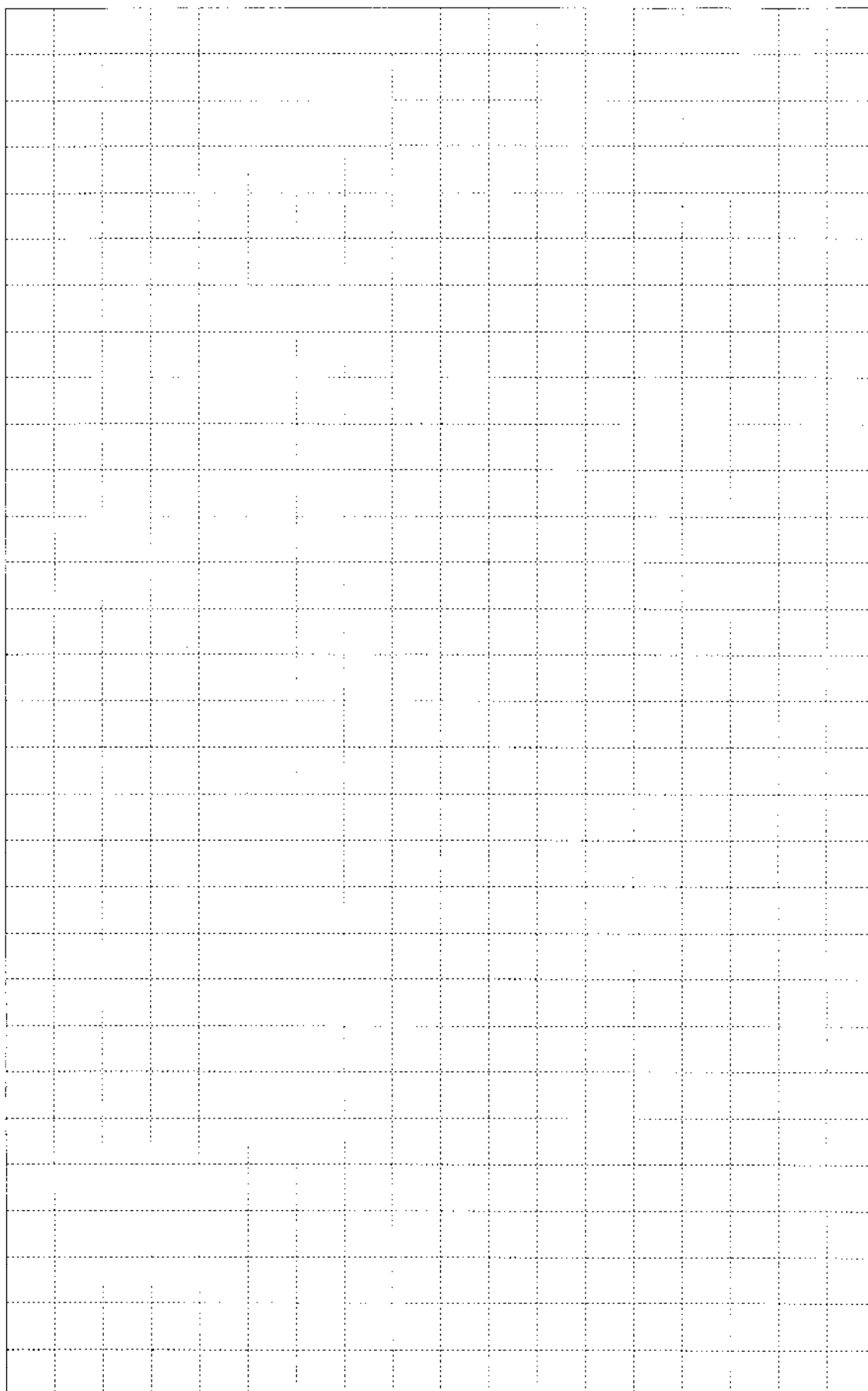
☐ 2階建て住宅 用途 住宅 構造 RC S W 造 地上2階 地下 階 延べ面積 m²

検 査 項 目	内 容	確認 日付	工事監理者		備 考
			確認方法	結果	
			A:目視検査 B:計測検査 C:施工者報告	適否	
共通	工事施工者の管理体制	☐ 主任技術者(監理技術者)の設置	/	A B C	適否
	確認の表示板	☐ 有 無	/	A B C	適否
	設計図書の現場備え	☐ 有 無	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
	工事現場の危害防止	☐ 仮囲い、根切り、落下物、建て方、材料集積、火災防止	/	A B C	適否
	確認済証と現場の照合	☐ 道路、敷地、建築物の配置等	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
敷地と道路	敷 地	☐ 敷地境界線の形態、明示	/	A B C	適否
		☐ 土地の高低差	/	A B C	適否
		☐ 避難・消防通路等	/	A B C	適否
	敷地の安全性	☐ 2m以上のがけの有無	/	A B C	適否
		☐ 擁壁（新設 既設）（RC 間知積み H m）	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
	敷地の接道	☐ 道路幅員、形態	/	A B C	適否
		☐ 2m以上の接道、路地状敷地の制限	/	A B C	適否
		☐ 大規模建築物の4m以上の道路に6m以上の接道	/	A B C	適否
		☐ 特殊建築物の接道	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
	道路内の制限	☐ 道路、道路後退線	/	A B C	適否
		☐ 6m未満道路のかど敷地の隅地の制限	/	A B C	適否
		☐ 庇・窓・扉等の突出	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
建物の配置		☐ 建物の形状、配置、設計地盤	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
建物の高さ	道路斜線制限	☐ 敷地高低差、空き寸法	/	A B C	適否
		☐ 道路斜線後退緩和の有無	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
	高度地区	☐ 真北方向、北側空き寸法、北側敷地高低差	/	A B C	適否
		☐ 最高高さ・庇・軒高さ、軒出寸法	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
	日影規制	☐	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
そ の 他	関係法令	☐ 宅地造成等規制法、都市計画法	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
		☐	/	A B C	適否
不具合の処理及び工事全般の考察					
添付図書	☐ 仮設施工計画書		☐ 写 真		
	☐ 土工事施工計画書		☐		
	☐		☐		
	☐		☐		

注1 該当事項について、☐ にレ印をしてください。

注2 確認方法の欄のABCに該当しないものは、備考欄に記入してください。

(裏面有ります)



(別紙3-2)

中間検査チェックシート(2階建て住宅)

(規則第26号様式第4面の代替様式)

対象建築物 木造2階建築物(混構造を含む)住宅(兼用を含む)

☐ 軸組工法 ☐ 2×4工法 ☐ 準耐火(イ-1) ☐ 準耐火(イ-2) ☐ 準防火地域 ☐ 法22条地域
☐ 純木造 ☐ RC+木造 ☐ S+木造 ☐ その他

特定工程 軸組木造(筋かい、耐力壁)

検査項目	内 容	確認 日付	工事監理者		備 考
			確認方法 A:目視検査 B:計測検査 C:施工者報告	結 果 適否	
木 造	建物の高さ	☐ 最高高さ13m以下、軒高9m以下	/	A B C	適 否
	基 礎	☐ 支持地盤の地耐力	/	A B C	適 否
		☐ コンクリート、鉄筋、アンカーボルトの材質	/	A B C	適 否
		☐ 種類(布、ベタ、その他)	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
		☐ 床下換気口又はこれに替わるもの	/	A B C	適 否
	土 台	☐ 材質	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
		☐ 継ぎ手位置、接合方法、状況	/	A B C	適 否
	柱	☐ 火打ちの設置	/	A B C	適 否
		☐ 材質	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
		☐ 欠き込み部分の補強	/	A B C	適 否
	横 架 材	☐ 通柱	/	A B C	適 否
		☐ 継ぎ手位置、接合方法、状況	/	A B C	適 否
		☐ 材質	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
	筋 か い 等	☐ 構造耐力上支障のある欠き込み部無し	/	A B C	適 否
		☐ 継手位置、接合方法、状況	/	A B C	適 否
		☐ 材質	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 形態、配置	/	A B C	適 否
		☐ 欠き込み部分の補強	/	A B C	適 否
		☐ 縦枠の配置(2×4)	/	A B C	適 否
	床 組	☐ 隅角部、交差部の補強(2×4)	/	A B C	適 否
		☐ 頭つなぎ(2×4)	/	A B C	適 否
		☐ まぐさ、まぐさ受け(2×4)	/	A B C	適 否
		☐ 材質	/	A B C	適 否
		☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
		☐ 継手位置、接合方法、状況	/	A B C	適 否
	小 屋 組	☐ 火打ちの設置	/	A B C	適 否
		☐ 開口部補強・耐力壁下根太補強(2×4)	/	A B C	適 否
		☐ 転び止め(2×4)	/	A B C	適 否
		☐ 材質	/	A B C	適 否
	接 合 部	☐ 形状、寸法	/	A B C	適 否
		☐ 位置	/	A B C	適 否
		☐ 振れ止め、火打ちの設置	/	A B C	適 否
		☐ 基礎と土台(アンカーボルトの位置、接合状況)	/	A B C	適 否
		☐ 柱と土台(接合方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ 柱と梁(接合方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ 管柱(接合方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ 筋かい端部(接合方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ 筋かいに替わる合板等の打ち付け(釘の種類、間隔)	/	A B C	適 否
		☐ 床合板等の打ち付け(釘の種類、間隔)	/	A B C	適 否
		☐ たる木(緊結方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ 屋根葺き材(緊結方法、状況)	/	A B C	適 否
		☐ たる木、トラスの緊結(2×4)	/	A B C	適 否
		☐	/	A B C	適 否

(裏面有ります)

(別紙 3-2) の裏面

検 査 項 目		内 容	確認 日付	工事監理者		備 考
				確認方法 A：目視検査 B：計測検査 C：施工者報告	結果 適否	
R C 造	既存打設状況	☐ 打込み欠陥部の有無、補修	/	A B C	適 否	
		☐ 柱、梁、壁、床等の躯体寸法	/	A B C	適 否	
		☐ 型枠支柱存置期間	/	A B C	適 否	
		☐ セパレーターの撤去、頭の処理	/	A B C	適 否	
		☐ コンクリート打設後の養生	/	A B C	適 否	
		☐ コンクリートの調合、圧縮強度	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
S 造	架構形式、部材の配置	☐ 構造体の架構、部材の配置、部材の寸法等	/	A B C	適 否	
	建 て 方	☐ 建て方精度がJASS6等に適合	/	A B C	適 否	
	トルシア形ボルト接合部	☐ 現場受け入れ検査(トルク係数値、導入張力確認試験)	/	A B C	適 否	
		☐ ボルトの径、本数、ピッチ、縁あき、(スプライズプレート厚さ)	/	A B C	適 否	
		☐ 締付け状態(肌すき、ビンテール破断、マーキング)	/	A B C	適 否	
	ブ レ ース	☐ 垂直、水平ブレース	/	A B C	適 否	
		☐ ブレース接合の形式、板厚、材質、補剛材等	/	A B C	適 否	
	柱 脚	☐ 柱脚接合法(認定工法)	/	A B C	適 否	
		☐ アンカーボルトの埋め込み方法	/	A B C	適 否	
		☐ ベースプレートの材質、形状、板厚	/	A B C	適 否	
		☐ アンカーボルトの材質、径、本数、配置、ナット	/	A B C	適 否	
		☐ スタッドボルトの径、本数、配置	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
	床 ス ラ ブ	☐ 床構造の形式(合成スラブ)	/	A B C	適 否	
		☐ シャーコネクターの位置、施工状況	/	A B C	適 否	
	現場溶接部	☐ 有 無	/	A B C	適 否	
	加工工場の選定	☐ 建築物の規模等の条件	/	A B C	適 否	
	材料の品質	☐ 鋼材、高力ボルトセット、溶接材料の規格、品質等	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
☐		/	A B C	適 否		
意	屋 根	☐ 材料、形状	/	A B C	適 否	
	外壁・軒裏	☐ 延焼のおそれある部分の構造	/	A B C	適 否	
	外壁の開口部	☐ 延焼のおそれのある部分の開口部(準防火地域)	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
		☐	/	A B C	適 否	
	居室の採光・換気・排煙	☐ 開口部の位置、大きさ、有効性	/	A B C	適 否	
	居室の天井高	☐ 210cm以上	/	A B C	適 否	
	居室の床高	☐ 45cm以上	/	A B C	適 否	
	階 段	☐ 位置、形状、構造	/	A B C	適 否	
匠 廊 下	☐ 幅員、形状	/	A B C	適 否		
	☐	/	A B C	適 否		
	防腐、防蟻措置	☐ 地面から1m以内の柱、土台、筋かい	/	A B C	適 否	
☐	/	A B C	適 否			
不具合の処置及び 検査結果の考察						
報告書	☐ 地質調査報告書	/	A B C	適 否		
	☐	/	A B C	適 否		
	☐	/	A B C	適 否		
添付図書	☐ コンクリート工事施工計画報告書		☐ 鉄骨製作要領書			
	☐ コンクリート圧縮強度試験結果報告書		☐ 鋼材ミルシート			
	☐ 鉄筋ミルシート		☐			
	☐		☐			
	☐		☐			
	☐ 溶接部社内・受入検査結果報告書		☐ 写真			

注 裏面については、申請時に施工されているものについてチェックしてください。